

## 建築作品部門

## 街づくり全般

茨城県石岡市・旧八郷村

# 落日荘

地球上の富めるものと貧しきものとの対立、すなわち「南北問題」と、いま私達の目前に迫る「地球環境問題」の解決に努力した30年の経験を踏まえ、終の棲家として「落日荘」を計画し、設計し、自力建設した。落日荘は、「環境建築」であること、つまり「地域環境に調和し、時代を超える持続的な生命力を内に秘めた住まい」であるよう、あらゆる観点から考察し、設計した。

●この土地は、正面の足尾山と北緯36度16分48秒という同じ緯線上にあって、春分秋分にはその頂上に陽が沈むという絶好の位置にある。西以外の三方は、落葉樹に囲まれ、さらにその外側が穏やかな山に囲まれて、敷地にコの字型の建物を建てれば三重の囲いに囲まれた中庭を得て、無類の精神的安定の場となる。

●地球環境と開発途上国の人々に、過大な負担を掛けないようにするために、「自分で食べるものは、できるだけ自分で作ること」を目標として、徒歩圏内の5畝の田んぼにて米を自給し、敷地内において野菜を栽培する。



### 岩崎駿介・岩崎美佐子の 共同設計・共同自主施工

(なお、この落日荘は、第12回  
(2011年度) JIA 環境建築賞、住  
宅部門の最優秀賞を受賞)

●岩崎駿介(代表) 1937年東京生。東京芸大建築科卒、ハーバード大学大学院都市デザイン修士。ガーナ国立大学専任講師、ボストン市役所、横浜市役所、国連(UN) スラム課長を経て筑波大学助教授。また1979年から1998年までの20年間、日本最大の国際協力NGO「日本国際ボランティアセンター(JVC)」代表などの市民活動を積極的に展開。

●岩崎美佐子 1944年神奈川県生、東京芸大工芸家卒、筑波大学地域研究科研究科修士。22歳で岩崎駿介と結婚し、アフリカやアメリカに住みキルト作家。36歳の時タイに移住して途上国の現状を知り日本国際ボランティアセンターの活動に参加、今は、持ち前の器用さをもって落日荘建設に邁進。

八郷村づくり宣言(試案・村民たちとの共同執筆)

私たちの住む茨城県石岡市「八郷村」は、四周を山で囲まれ、恋瀬川を中心に田んぼが広がる農村です。なだらかな地形と四季折々の風景は、全ての人の心を打ち安らぎをもたらします。

私たちは、これからの地球時代、これまで当たり前前と思っていた自分達の便利で安直な暮らしを見直し、それが、日本の一部地域や海の向こうの南の人たちを痛みつけているという事実をしっかりと理解して八郷の地で、新しい生活を築いていきたいと思えます。

地域の中で眠っている資源を掘り起こして循環できるエネルギーや廃棄物の仕組みを作ると同時に土壌を傷めない有機農業を進め、遠くの国の紛争や貧困の事実を、子ども達と共有していくことに努力したいと思えます。

一人一人のやれる事、できる選択は小さなことかも知れませんが、私たちが自身が、まず目覚めて意識すること、そして行動することです。

